

記念物
【史跡】

まじゃんがー
真謝井戸

指定年月日／1996（平成8）年11月12日
所在地／白保738



真謝井戸は、18世紀初期に作成された『八重山島諸記帳』に「真謝井 村内に有」と記されている井戸で、古くから村の共同井戸として利用されてきた。井戸はウリカー（降り井戸）と呼ばれる形態で、水際まで直接降りて水を汲むようになっている。入口部分は、道路拡張のため幾分手直しが見られるが、全体的にはほぼ原形をとどめている。階段は急勾配で、飲料水に供していた当時の人々の生活がしのばれる。

1771年の明和大津波で白保村は壊滅的な被害を受け、「おかは井」「真謝井」

「ゑさんと井」の3つの井戸も跡形もなく埋まってしまった。しかし、埋まった真謝井の位置を言い当てた人物がおり、実際に掘ってみると井戸が現れ、再建されたという伝承が残っている。

以来、真謝井戸は村の共同井戸として、村人に貴重な水源を提供してきた。水道が普及し、井戸は使われなくなったが、信仰の対象として旧暦6月の豊年祭、8月の初水の願い（アラミジヌニンガイ）が執り行われている。

記念物
【史跡】

とみの い せき
富野遺跡

指定年月日／2007（平成19）年3月23日
所在地／桴海299-1



出土した鉄鍋片

富野遺跡は、字桴海にある富野小学校の北西側に位置し、海岸から緩やかに立ち上がる石灰岩台地上に位置している。

八重山考古学編年では、中森期（13世紀末～17世紀初）に属する遺跡で、屋敷囲いの石積みが残っており、地元産の中森式土器や中国産陶磁器が出土している。特筆されるのは中国製の青磁・白磁・褐釉陶器（南蛮甕）などの舶載陶磁器の豊富さであり、これらの資料から、遺跡の時期は14世紀から15世紀にかけて盛期を迎えたものと考えられる。出土資料では鉄鍋片の出土もあり、その形状から中森式土器の器形変化を推察するうえで重要な資料となっている。

屋敷囲いの石積みをもつ遺跡は、フルスト原遺跡をはじめ石垣島各地にあるが、富野遺跡は其中でも良好な状態で遺構が残っている。石垣島の北海岸に面した場所でこれほどの遺構や遺物が残されていることは貴重である。